人生十色 私を豊かにする まちの入り口

慈恵医大「ボランティア論」から

市民活動支援センターでは、4年前の2019年から、東京慈恵会医科大学医学部看護学科（以下、慈恵医大）の「ボランティア論」（1・2年生の選択授業）で、授業の1コマと履修生のボランティア体験先の調整を行い、将来、看護師や保健師を目指す学生の学びのお手伝いをしています。今回の特集記事では、この授業の目的や、地域活動に参加した学生の感想の一部を紹介します。

慈恵医大「ボランティア論」のねらい　慈恵医大看護学課教授 嶋澤 順子 氏 より

慈恵医大「ボランティア論」へのご協力、本当にありがとうございます。「ボランティア論」は、看護学科としてこれまでにない先進的取り組み科目として4年前に設置した科目です。調布市市民活動支援センター、調布市内のボランティア活動の皆様からの多大なご協力を得て、開講しています。

学修の一環として行う“ボランティア活動参加”を通して、学生たちはこれまで体験し得なかった活動との出会い、理念を持って行動されている市民の皆様との出会い、といったダブルの出会いをもつことが、大きな学びにつながっていると考えています。未来の医療保健福祉の場で創造的に活動する力を、市民の皆様から授けていただいている、と思っています。これからも、どうかよろしくお願いいたします。

嶋澤 順子 氏

授業の内容

ボランティア論は、4月～6月の前期の授業として実施されていて、大きく分けると①ボランティア活動の概説（定義や歴史）を学ぶ時間と、②活動体験に向けた準備、③活動体験、④活動報告会の4つのパートに分かれています。センターでは、②の部分を授業でお伝えし、③で活動団体の皆さんご協力のもと、履修生の体験をサポートしています。

今年度の授業では、センター職員の講義に加え、えんがわだより4月号で特集した「しばさき彩ステーション」の副代表、大木智恵子さんから、活動内容や想いを臨場感たっぷりに語っていただきました。授業後の学生の感想では、様々な活動や参加する方の背景を意識しながら活動に参加することで、将来の看護に役立つと感じたといった嬉しいコメントをもらうことができました。